



日本プライマリ・ケア連合学会  
**四国**ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩

事務局 〒761-2103  
 香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
 綾川町国民健康保険陶病院気付  
 副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛  
 Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
 E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 平成27年度香川プライマリ・ケア研究会、第15回日本プライマリ・ケア連合学会

四国ブロック支部、第22回四国地域医学研究会学術集会・合同集会開催のご案内 (11月21～22日)

三豊総合病院 地域医療部 中津守人

香川プライマリ・ケア研究会、日本プライマリ・ケア連合学会四国支部、四国地域医学研究会の学術集会・合同集会を下記のとおり開催することとなりました。今回は患者のあらゆる健康上の問題、疾病に対し、総合的・継続的、そして全人的に対応する人材の育成・指導について考える機会になればと思います。そこで、「プライマリ・ケアにおける人材育成、生涯研修」をメインテーマとし、1日目は、大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座特任教授・大阪医科大学医学部附属病院総合診療科科長 鈴木富雄先生を講師にお迎えし、ご講演いただきます。鈴木先生は、NHK「ドクターG」やケアネットにもご出演されており、総合診療や医学教育で大変ご高名な先生です。「学び喜び育てられ医療人にとっての教育とは」という演題でお話していただく予定です。

2日目は、医療法人松藤会入江病院副院長の入江聰五郎先生をお迎えして、臨床推論セミナーを企画しています。入江先生は、「バイタルサインからの臨床診断」の著者で、症例検討を行った後、臨床推論におけるバイタルサインの重要性についてご講演いただく予定です。皆様には、必ず満足していただける事と思いますので、多数のご参加と演題応募をお待ちしています。

プログラム

【1日目】

日時：平成27年11月21日(土) 午後2時～

場所：リーガホテルゼスト高松 3階 ダイアモンド

(香川県高松市古新町9-1 TEL:087-822-3555)

内容：①一般演題 (午後2時10分～4時55分)

②ビデオ講演 (午後5時5分～5時20分) 本学会丸山泉理事長

③特別講演 (午後5時20分～6時20分)

「学び喜び育てられ医療人にとっての教育とは？」

大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座特任教授

大阪医科大学附属病院総合診療科科長 鈴木富雄先生

④懇親会 (午後6時30分～8時) (リーガホテルゼスト高松)

【2日目】

日時：平成27年11月22日(日) 午前8時半～

場所：香川県医師会館 3階大会議室

(高松市浜ノ町73-4 TEL:087-823-0155)

内容：①後期研修医師フォーラム発表会 (午前8時30分～9時)

②臨床推論セミナー (午前9時～10時20分)

「臨床推論におけるバイタルサインの重要性」

医療法人松藤会入江病院副院長 入江聰五郎先生

③一般演題発表 (午前10時30分～12時30分)



(終了後 日本PC連合学会四国ブロック支部総会を開催予定)

単 位：日本医師会生涯教育講座 ①4.5単位 ②4単位

日本プライマリ・ケア学会専門医・認定医更新 - ①4単位 ②3.5単位

日本プライマリ・ケア学会薬剤師・認定薬剤師更新-①2単位 ②2単位

参加費：無料 (香川プライマリ・ケア研究会関係団体会員、日本プライマリ・ケア連合学会四国支部会員、学生)

\*上記以外の方は2日間通して1000円 (当日徴収)

懇親会：5000円 (学生2000円) 当日徴収

### 参加申込み

参加申込書に記入の上、平成27年10月30日(金)までに、FAXにてお申込み下さい。

同じ項目(氏名・所属・職種・連絡先・参加日・懇親会)を電子メールでお送りいただいても結構です。

### 一般演題募集要項

(1)内容はプライマリ・ケアに関するものであれば何でも結構です。

(2)発表形式

会場にパソコン (Windows版) をご用意いたします。パソコンの持ち込みには対応しかねますので、ご遠慮下さい。ソフトは、Microsoft Power Point (Windows版) をお願いします。

(3)発表時間

発表時間は質疑応答を含め、10分程度を予定しておりますが、演題数により調整させていただきます。

(4)抄録締切り 平成27年9月18日(金)必着

抄録が間に合わない場合は、まず演題名・連絡先等をご連絡下さい。

(5)申込み方法

氏名、所属、連絡先(郵便番号、住所、TEL、FAX、メールアドレス)と演題名および600字以内の抄録を電子メールにてお送り下さい。また、発表日について21日か22日の希望を申し込み時にご連絡ください。(今回は、香川プライマリ・ケア研究会との共催となり、1日目は、多職種が参加します。学生の発表は、できれば2日目にお問い合わせできましたら幸いです。)

(6)発表データ送付のお願い

パワーポイントで作成したファイルを事前にお送り下さい。締切りは、平成27年11月12日(木)です。電子メール又はUSBメモリーやCD-R等の郵送にて事務局まで提出下さい。

### 申 込 先

香川プライマリ・ケア研究会 〒760-8534 香川県高松市浜ノ町73-4 香川県医師会館内

TEL:087-823-0155 FAX:087-823-0266 E-mail:chiiki@kagawa.med.or.jp

### お 問 合 先

○香川プライマリ・ケア研究会 〒760-8534 香川県高松市浜ノ町73-4 香川県医師会館内 (担当:長尾)

TEL:087-823-0155 FAX:087-823-0266 E-mail:chiiki@kagawa.med.or.jp

○日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会 〒761-2103 観音寺市豊浜町姫浜708 三豊総合病院内

(担当者:中村(義文)) TEL:0875-52-3366 FAX:0875-52-4936 E-mail: [nakatsu@mitoyo-hosp.jp](mailto:nakatsu@mitoyo-hosp.jp)

## ★2 「総合診療専門医養成に関する協議会発足」

高知大学医学部家庭医療学講座 阿波谷敏英

高知県には、日本プライマリ・ケア学会認定の家庭医療専門医の後期研修プログラムはVer.1が2つ、Ver.2が1つあり、現在3人の専攻医が登録されています。しかし、後期研修を経て家庭医療専門医となった医師はこれまで1人しかおらず、まだまだ、十分な研修体制があるとは言えませんでした。2017年に始まる総合診療専門医の研修体制を整えることは喫緊の課題といえます。

総合診療専門医の養成に興味を持っている医療施設は少なくありません。家庭医療専門医の後期研修プログ

ラムを有している医療施設でもそうですが、いままで家庭医・総合医の養成に関与したことの少ない医療機関では尚更、そのノウハウやリソースが限られています。

こうした状況を鑑みて、総合診療専門医の養成に関わる意志のある県内医療機関の協議の場を設けることになりました。高知大学医学部家庭医療学講座から県内医療機関に呼び掛け、現時点で興味をもっている 12 医療機関、22 人の医師、事務担当者に集まっていただき、2015 年 7 月 21 日、第 1 回協議会を開催しました（於：高知大学医学部レジデントハウス南風）。



最初に日本専門医機構理事倉本秋先生（高知医療再生機構理事長）から、「総合診療専門医養成についての最新情報」と題し 1 時間の講演をいただきました（写真）。まだ流動的な部分もありますが、総合診療専門医に関しての正確な知識を得ることができました。

引き続き行われた意見交換では、基幹施設、協力施設の要件、指導医やプログラム統括責任者の認定などの質問が相次ぎました。また、ポートフォリオ発表会など研修の質を高める取り組みを県全体でおこなうべきとの意見や、複数の医療機関をローテートするときの専攻医の身分や給与負担についても意見が出されました。

今後の方向として、各医療機関に持ち帰り協議をおこなうこと、プログラム整備指針が公表されたのちに次回の協議会を開催すること、事務局は引き続き家庭医療学講座が担うこと、が満場一致で決まりました。

9 月開催予定の次回の協議会では、具体的に研修施設群の検討となります。県内の総合診療専門医の研修体制の質、量ともに充分であるように県全体で取り組んでいきます。

### ★3 愛媛県研究会における最近の活動

四国ブロック副支部長（愛媛）川本龍一

#### A) 第 15 回愛媛プライマリ・ケア研究会（平成 27 年 6 月 27 日）

今回も例年にまして一般演題および特別講演は、これからの夏の暑さを吹き飛ばすような熱のこもった内容であったと思います。特別講演には、自治医科大学地域医療学センター総合診療部門教授の松村正巳先生をお招きして、「実地医家のための臨床推論—診断とプロセスのエラー—」と題して御講演をいただきました。先生は石川県出身であり、昭和 61 年自治医科大学卒業後、石川県内の診療に従事されていた方です。実地臨床に即した臨床推論の醍醐味を存分に感じさせられる内容でした。「最低限の検査機器しかないような現場で、最大限に患者の問題を正しく診断する」ヒントが得られたと思います。



#### B) 第 1 回しまなみ海道臨床推論道場（平成 27 年 7 月 19—20 日）

今回、学生主催のしまなみ海道臨床推論道場を開催しました。歴史的にも魅力ある尾道から瀬戸内海の島々を巡りながらのワークショップでした。尾道の真言宗浄土寺では問診クエストを亀田総合病院感染症科佐田先生の指導により、4 つに分かれた各グループにおいて上級学生がファシリテーターとして症例を提示し、参加者が問診していくというものでした。その後、耕三寺に移動し、お寺の講堂にて徳洲会奄美大島病院の平島先生によるフィジカルクラブが行われました。先生は胸部内臓をプリントした T シャツと競技用スーツで登場し、聖闘士星也とコスモの話を変えながらの身体診察の重要性について実技実習を含む講演はユニークで個性あふれるものでした。



その後、村上水軍博物館に移動して、今回のメインイベントである JCHO の徳田安春先生による臨床推論におけるエラーについてのワークショップが行われました。様々な段階でのエラーが生じることを常に考えながら診断・治療することの重要性について学びました。夜の懇親会では学生同士、教員と学生との交流が行われま

した。瀬戸内で獲れた海の幸を味わいながらの楽しい会でした。翌日は、学生中心に昨日学んだことについての復習が、新たな症例を加えて行われました。二日間にわたるワークショップでしたが、演者からも地域の魅力を観光しつつ医療を学ぶワークショップは全国でもこれまでにない試みとして絶賛されました。

#### C) 瀬戸内海の診療船：済生丸乗船実習（平成 27 年 8 月 20、21、24 日）

内容：診療船の見学、離島での検診事業の体験

対象：医学部学生（学年は問いません）

定員：各曜日約 10 名、日程：各実施日の 1 日

参加費：無料、集合：済生会松山病院(089-951-6111)

学生の離島実習を兼ねて済生丸診療船に乗船し、大洲市青島、長浜町沖の瀬戸内海に浮かぶ小島に向う予定

です。乗船する船は、診療船というだけあって診察室、心電図、超音波、X線装置などあらゆる設備が整っています。猫が住民より多いのが特徴で、それを見に来る観光客も増えているそうです。



### ★4 徳島から新病院視察、阿波踊り

徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合診療医学分野（徳島）谷 憲治

#### A) 第 16 回 徳島地域医療教育研究会開催

医学生と地域医療教育に関わる大学・地域医療機関の医療スタッフが集まって親睦を図るとともに、徳島の地域医療教育をより良いものにしようと年 2 回開催しているこの会も第 16 回目を迎えました。今回は医学科 3 年生の研究室配属生 5 名による地域医療に関する研究テーマ紹介、地域医療実習を選択した医学科 5 年生 3 名による選択実習報告、そしてフェリス女学院文学部の谷知子教授（総合診療医学分野の谷教授の妹）による特別講演「和歌の魅力ー31 文字のマジックー」の内容で開催されました。医学生 28 名を含む 61 名の参加があり、研究会後の親睦会も大いに盛り上がりました。



研究会後の親睦会も大いに盛り上がりました。

#### B) 医学生サークル「地域医療研究会」の病院視察

徳島大学医学生サークル「地域医療研究会」には現在 156 名の医学生が在籍し、地域医療を学ぶ様々な活動を行っています。2015 年 4 月 18 日には 12 名が美馬市のハウエツ病院を訪問し、徳島県中西部の救急医療から慢性期医療まで幅広く貢献している姿を見せていただきました。ヘリポートを以前から設置しておられ、ドクヘリが本県に導入されてからは県西部の救急医療に大きな役割を果たしている病院です。また、6 月 20 日には GW 明けに開院した吉野川医療センター（旧 麻植協同病院）の視察と実習をさせていただきました。新病院の建物や設備を見学させていただくだけでなく、腹部や心臓の超音波検査体験など参加型の実習も企画していただきました。



#### C) 「地医輝連（ちいきれん）」の阿波踊り

「地域医療の未来が輝くように」と願いを込めて 2010 年に結成された地医輝連も 6 年目の夏を迎えました。2011 年から

は医学生サークル「地域医療研究会」のメンバー達に徳島県出身の自治医科大学学生も加わった合同連として活動しています。8 月 14 日の本番では、普段踊りの指導をいただいている蜂須賀連の皆さんの踊りと鳴り物支援を受けて、演舞場を踊り抜きました。今年もおよそ 40 人が参加し、「夢は地域の総合医、阿波の医療は任せとけ」、「医療の谷間へ灯をともせ」の掛け声が響かせながら、徳島の地域医療を元気にアピールしました。